

科目区分	国文学科専門教育科目						
科目名	漢文を読むB						
担当教員	青木 稔弥						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	金曜3	配当学年	2~4	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	漢文を通じて中国文化を受容する 漢文は中国文化を日本に受容することに腐心した先人の工夫です。 中国語を日本語化して読むためのものなのです。 漢文を読むBでは実際にテキストに即して漢文作品を読みます。
授業計画 Syllabus	第1回 ガイダンス 第2回 漢文作品の数々 第3回 第1の作品 第4回 第1の作品と日本文学 第5回 第2の作品 第6回 第2の作品と日本文学 第7回 第3の作品 第8回 第3の作品と日本文学 第9回 第4の作品 第10回 第4の作品と日本文学 第11回 第5の作品 第12回 第5の作品と日本文学 第13回 一応のまとめと筆記試験 第14回 筆記試験に関する質疑応答 第15回 総まとめ
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	演習形式
評価方法 Evaluation	日常的な授業に対する取組状況等の評価50%と筆記試験50%
履修上の注意 Requirements and policy	積極的な授業参加が必要
教科書 Textbook(s)	大学漢文テキスト 伝奇小説 漢文資料編集会議 編 大修館書店 ISBN(10/13桁):4-469-33211-9/978-4-469-33211-7
参考書 Reference(s)	
備考 Remarks	

科目区分	国文学科専門教育科目						
科目名	外国語会話IIB (中国語)						
担当教員	古川 典代						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	金曜3	配当学年	2~4	単位数	1.0

授業の目的、概要 Objectives and content	<p>1. この授業では、中国語の運用実践を多く取り入れてコミュニケーション可能な語学力を育成することを目的とする。</p> <p>2. 中華料理のメニューの読み方、オーダーの仕方、麻婆豆腐や水餃子の作り方などを中国語理解の上で学習し、実践の場で役立てることを目指す。</p> <p>3. ビデオなどの映像補助で中国文化に対する知識と理解を深め、ロールプレイなどの作業を取り入れて五感で中国語を習得できるよう導く。</p> <p>4. 中国語で歌を最低1曲は習得し、中国人とのコミュニケーション手段として中華カラオケを活用できるようにする。</p>
授業計画 Syllabus	<p>第一回 前期おさらい</p> <p>第二回 第十課</p> <p>第三回 第十一課</p> <p>第四回 第十二課</p> <p>第五回 中国語でロールプレイ</p> <p>第六回 第十三課</p> <p>第七回 第十四課</p> <p>第八回 第十五課</p> <p>第九回 小テスト、おさらい</p> <p>第十回 中国の歌、映画、ドラマの紹介</p> <p>第十一回 第十六課</p> <p>第十二回 第十七課</p> <p>第十三回 総まとめ、質疑応答</p> <p>第十四回 見直し、後期テスト</p> <p>第十五回 テスト講評</p>
参照URL Referance URL(s)	
授業方法 Class type	講義
評価方法 Evaluation	日常点・出席点：30% 小テスト・宿題：20% 定期テスト：50%
履修上の注意 Requirements and policy	授業に真摯な態度で臨むこと。
教科書 Textbook(s)	古川典代／福富奈津子 著 料理で学ぶオイシイ中国語 (朝日出版社)
参考書 Reference(s)	授業中に紹介します。

備考 Remarks	
---------------	--

科目区分	国文学科専門教育科目						
科目名	外国語会話IIIB（朝鮮語）						
担当教員	金 美善						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	金曜1	配当学年	2~4	単位数	1.0

授業の目的、概要 Objectives and content	前期に引き続き、後期では基礎的な文法や構文の習得を進める中で、現在韓国で実際に使われる表現を暗記していきます。 授業中には発話する機会を多く設け、朝鮮語で寸劇を行います。
授業計画 Syllabus	<ol style="list-style-type: none"> 1. 存在表現 2. 指示表現 3. 職業、趣味に関する表現 4. 数字 1 5. 数字 2 6. 数字を使った買い物 7. 私の一日 8. いろんな朝鮮語（映画、ニュース、お笑い番組など）を接してみよう 9. うちとけた「です、ます」 10. 過去表現 11. 未来表現 12. 語彙を増やそう 13. 寸劇 1 14. 寸劇 2 15. 期末テスト
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	講義
評価方法 Evaluation	平常点60%（欠席した場合は減点） 期末テスト40%
履修上の注意 Requirements and policy	毎回暗記テストを行います。 期末テストは寸劇で行います。
教科書 Textbook(s)	金順玉他著 『チャレンジ！韓国語』 （白水社）
参考書 Reference(s)	韓日辞書
備考 Remarks	

科目区分	国文学科専門教育科目						
科目名	近代文学を学ぶB						
担当教員	青木 稔弥						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	木曜2	配当学年	3~4	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	日本の近代文学 日本近代文学の様々な問題を考える。 来年度、日本近代文学で卒業論文を書きたいと考えている人のための研究案内をも兼ねています。
授業計画 Syllabus	第1回 ガイダンス 第2回 日本近代文学とは？ 第3回 研究するということ 第4回 作品論の問題1 第5回 作品論の問題2 第6回 作家論の問題1 第7回 作家論の問題2 第8回 テクスト論 第9回 語り手の問題 第10回 性別の問題 第11回 読者の問題1 第12回 読者の問題2 第13回 一応のまとめと筆記試験 第14回 筆記試験に関する質疑応答 第15回 総まとめ
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	演習形式
評価方法 Evaluation	日常的な授業に対する取組状況等の評価50%と筆記試験50%
履修上の注意 Requirements and policy	積極的な授業参加が必要
教科書 Textbook(s)	石原千秋著 『読者はどこにいるのか—書物の中の私たち』(河出ブックス) 河出書房新社 ISBN : 9784309624013
参考書 Reference(s)	
備考 Remarks	

科目区分	国文学科専門教育科目						
科目名	近代文学を読むB						
担当教員	太田 路枝						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	木曜3	配当学年	2~4	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	大正・昭和期の小説を精読します。精読とは、ストーリーの展開を楽しむ一般的な読書とは異なり、細部に注意を払い、一語一句確認しながら丁寧に読むことです。作品の背景を知るための調査も必要です。
授業計画 Syllabus	第1回 開講にあたってのガイダンス 第2回 谷崎潤一郎「途上」予備知識、作品精読 第3回 谷崎潤一郎「途上」作品精読、背景考察 第4回 谷崎潤一郎「途上」先行研究、解釈 第5回 谷崎潤一郎「途上」まとめと小テスト 第6回 江戸川乱歩「人間椅子」予備知識、作品精読 第7回 江戸川乱歩「人間椅子」作品精読、背景考察 第8回 江戸川乱歩「人間椅子」先行研究、解釈 第9回 江戸川乱歩「人間椅子」まとめと小テスト 第10回 志賀直哉「范の犯罪」予備知識、作品精読 第11回 志賀直哉「范の犯罪」作品精読、背景考察 第12回 志賀直哉「范の犯罪」先行研究、解釈 第13回 志賀直哉「范の犯罪」まとめと小テスト 第14回 映像作品鑑賞と小レポート 第15回 試験返却・質疑応答
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	講義
評価方法 Evaluation	平常点25%、小テスト（3回分）75%
履修上の注意 Requirements and policy	積極的に授業に参加する学生の受講を期待します。 授業外における学習として、作品に目を通しておいください。
教科書 Textbook(s)	「文豪の探偵小説」 山前譲編 集英社文庫 ISBN978-4-08-746099-5 授業で扱う三作品中の二作品が収録されています。15回中11回の講義で使用予定です。
参考書 Reference(s)	授業中に紹介します。
備考 Remarks	

科目区分	国文学科専門教育科目						
科目名	近代文学史B						
担当教員	金岡 直子						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	木曜4	配当学年	2~4	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	<p>日本近代文学の輪郭をとらえる（大正～昭和） 大正・昭和期の文学を時流に沿いながら深く理解することを目指します。昭和期までの文学史の流れを知ること、現代文学への視点を定めるきっかけをつくってみましょう。</p> <p>文学史というと、高校時代の『便覧』にあった「文学史年表」を思い浮かべる人が多いと思います。その概括的な流れのなかには、注目されなかった名品や、話題になりつつもいまは淘汰された作品などはおそらく入っていません。それらの作品を看過せず自身の手で再評価することが出来れば、文学の「目利き」になることが可能です。是非、文学史の本の太字部分以外にも注目する目を養って下さい。</p> <p>この講義では文学史に対する考えをより柔軟なものにするため、文学作品のなかの「恋愛」や「結婚」にまつわる事柄を多く取り挙げていきます。身近なトピックから、作家の人生や作品に興味を持ち、作品を味わうところまで達成してほしいためです。個々の作品の特性から、同時代の特徴、文学の転換期などに視点が広がっていくように、「作品」という点から、「文学史」という面に至るまで、文学の面白味を読みとっていききたいと考えます。</p>
授業計画 Syllabus	<p>第1回：イントロダクション／「白樺派の文学 有島武郎」 第2回：「近代詩の成熟」 第3回：「新現実主義の文学 芥川龍之介」 第4回：「新現実主義の文学 私小説」 第5回：「大正の詩 萩原朔太郎」 第6回：「モダニズムの文学 横光利一」 第7回：「新感覚派 川端康成」 第8回：「プロレタリア文学」 第9回：「文芸復興」 第10回：「転向文学」 第11回：「戦時下の文学」 第12回：「文学の復活と無頼派の文学」 第13回：「戦後派文学 第一次第二次戦後派」 第14回：「三島由紀夫以後」 第15回：後期終了／半期のまとめと試験</p>
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	講義形式。
評価方法 Evaluation	期末試験45%、出席状況45%、平常点10%により総合的に評価。
履修上の注意 Requirements and policy	学ぶ姿勢を忘れないこと。詳しくは初回の授業に説明。
教科書 Textbook(s)	教科書の他に適宜プリントを配布します。 現代日本文学史 著 大久保典夫／岡保生共著（おうふう）
参考書 Reference(s)	

備考 Remarks	
---------------	--

科目区分	国文学科専門教育科目						
科目名	現代日本語入門B						
担当教員	青木 稔弥						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	木曜3	配当学年	1~4	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	日本語を確かに使う。 現代日本語入門Aの続き。引き続き、現代日本語についての理解を深める。
授業計画 Syllabus	第1回 ガイダンス 第2回 日本語の歴史 第3回 外国語としての日本語 第4回 日本語の活用1 第5回 日本語の活用2 第6回 日本語の活用3 第7回 日本語の活用4 第8回 日本語の活用5 第9回 日本語の活用6 第10回 日本語の活用7 第11回 日本語の活用8 第12回 日本語の活用9 第13回 一応のまとめと筆記試験 第14回 筆記試験に関する質疑応答 第15回 総まとめ
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	各自、発表テーマを決め、毎回2人は前に出て発表、皆で活発な討論をする。
評価方法 Evaluation	日常的な授業に対する取組状況等の評価70%と筆記試験30%
履修上の注意 Requirements and policy	具体的資料を用意し、自分の頭で考え、確認できたことを発表すること。 積極的な授業参加が必要です。
教科書 Textbook(s)	
参考書 Reference(s)	
備考 Remarks	

科目区分	国文学科専門教育科目						
科目名	現代日本語入門B						
担当教員	吉井 健						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	木曜3	配当学年	1~4	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	日本語の研究って何だろう？ いくつかのテーマを扱いながら、その疑問を解いてゆく授業である。 日本語を見るさまざまな目を養うことを目標にしている。 後期はコミュニケーションの気づきを中心にいくつかの具体的な問題を考える。
授業計画 Syllabus	第1回 ガイダンス 第2回 日本語の歴史 第3回 外国語としての日本語 第4回 日本語の疑問1 第5回 日本語の疑問2 第6回 日本語の疑問3 第7回 日本語の疑問4 第8回 日本語の疑問5 第9回 日本語の疑問6 第10回 日本語の疑問7 第11回 日本語の疑問8 第12回 日本語の疑問9 第13回 一応のまとめとレポート試験 第14回 筆記試験に関する質疑応答 第15回 総まとめ
参照URL Referance URL(s)	
授業方法 Class type	講義および発表
評価方法 Evaluation	平常点60% レポート試験40%
履修上の注意 Requirements and policy	身近なことばの問題を扱うので調査や発表、質問を積極的にしてください。
教科書 Textbook(s)	プリント配布
参考書 Reference(s)	授業中に紹介する。
備考 Remarks	授業中に面白い問題が出てきた場合、計画を変更することがあります。

科目区分	国文学科専門教育科目						
科目名	国語学を学ぶD						
担当教員	池谷 知子						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	金曜2	配当学年	3~4	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	<p>誰でも一度はバイリンガルに憧れたことがあるのではないのでしょうか。母語の他に別の言語を自由に話せたらどんなにすばらしいことでしょうか。この授業では2つ以上の言語を操ることが、子供の発達過程どのような関係にあるのか考えてみたいと思います。授業の構成としては、まず、バイリンガルの基礎理論を学びます。次いで、学校教育、家庭教育、社会教育としてのバイリンガル教育を学びます。また、日本だけではなく、アメリカやカナダなど他国のバイリンガル教育も概観します。</p> <p>同時に、そのバイリンガル教育が日本語教育や外国語教育にどのように応用されているのかについても考えてみたいと思います。</p> <p>2008年の厚生労働省データによると、東京23区内の国際結婚の割合は10.1%に上るそうです。バイリンガルとは遠い問題ではなく、今や皆さんの身近にある問題になりつつあるのです。</p>
授業計画 Syllabus	<p>第1回 アメリカのバイリンガル教育 第2回 アメリカのバイリンガル教育 第3回 帰国子女とバイリンガル教育 第4回 帰国子女とバイリンガル教育 第5回 日系人子女とバイリンガル教育 第6回 日系人子女とバイリンガル教育 第7回 日系人子女とバイリンガル教育 第8回 バイリンガルと文化の習得 第9回 バイリンガルと文化の習得 第10回 バイリンガルと文化の習得 第11回 バイリンガル教育への疑問 第12回 バイリンガル教育への疑問 第13回 バイリンガル教育の外国語教育への貢献 第14回 試験とまとめ 第15回 バイリンガル教育の外国語教育への貢献</p>
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	講義形式
評価方法 Evaluation	出席60%+試験40%
履修上の注意 Requirements and policy	全講義回数の4/5以上の出席をもって、試験受験の資格とする。
教科書 Textbook(s)	バイリンガル教育の方法 -12歳までに親と教師ができること- 中島和子 (アルク) ISDN978-4-7574-0282-9 2,500円
参考書 Reference(s)	
備考 Remarks	

科目区分	国文学科専門教育科目						
科目名	国語史B						
担当教員	尾山 慎						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	水曜2	配当学年	2~4	単位数	2.0
授業の目的、概要 Objectives and content	<p>本講義は、前期の国語史Aを引き継ぐもので、日本語の歴史を、主に資料を通して学びます。</p> <p>日本には様々な文字資料が残されており、お隣の中国韓国などに比べても豊富に保存されているといわれます。ICレコーダーやビデオカメラのない時代のことから、古い日本語のを知るには、それらの残された資料が、唯一にして最大の手がかりということになります。たとえば万葉集という日本でもっとも古い歌集には、平仮名が出てきません。すべて漢字で書かれています。ではそれは中国語かといえば決してそうではありません。日本には独自の文字がなかったため、漢字を借りて日本語を書いたのです。これは、今の我々からするとずいぶん不便なことのようには思えます。しかし、そこには今の私たちの発想にはとても上ってこないような、古代の人々の工夫と叡智を見ることができるとは思います。古代の人々の豊かな言語活動の有様を味わってください。そして、その連続上に生きる私たちの読み書き、あるいは話し聞くということ、今一度見つめ直してみよう。</p>						
授業計画 Syllabus	<p>第1回 総説 本講義の目的と概要の解説、加えて前期国語史Aの概要報告</p> <p>第2回 言語資料に関する概説—取り扱い上の注意点、資料の見方など</p> <p>第3回 古代の文字資料から—その① 金石文、銘文と日本語</p> <p>第4回 古代の文字資料から—その② 万葉集（前編）</p> <p>第5回 古代の文字資料から—その③ 万葉集（後編）</p> <p>第6回 古代の文字資料から—その④ 日本書紀（小テストその①）</p> <p>第7回 古代の文字資料から—その⑤ 古事記</p> <p>第8回 古代の文字資料から—その⑥ 風土記</p> <p>第9回 古代の文字資料から—その⑦ 古今和歌集</p> <p>第10回 古代の文字資料から—その⑧ 土佐日記</p> <p>第11回 古代の文字資料から—その⑨ 源氏物語</p> <p>第12回 古代の文字資料から—その⑩ 日本の古い辞書を読む</p> <p>第13回 古代の文字資料から—その⑪ 日本の古い音楽資料を読む（小テストその②）</p> <p>第14回 文字と声—言語資料が伝えるもの（総説）</p> <p>第15回 期末試験（50分）+解答解説（40分）</p>						
参照URL Reference URL(s)							
授業方法 Class type	<p>毎回オリジナルテキストとしてプリントを配布します。その中では、重要項目が空欄になっているので、講義を聴きつつ、それらを穴埋めし、一枚の完全なテキストを完成させていきます。なお、講義の内容は基本的に1回完結型ですが、すでに話した内容を踏まえて次のステップに進むということがあります。</p>						
評価方法 Evaluation	<p>小テストを2回に加えて期末試験（第15回目）を行います。小テスト20%×2、期末テスト60%にて成績評価します。また出欠を採る場合がありますが、欠席回数に応じて減点があります。</p>						
履修上の注意 Requirements and policy	<p>毎回配られる資料は、重要な部分が空欄になったままです（「授業方法」の項目参照）。従って、欠席しますとプリントは入手できても肝心の項目を知ることができません。欠席せず、講義内容をしっかり聞き、書き留める態度が求められます。また前期に開講される国語史Aは本講義が多く前提とする内容ですので、すでに履修していることが望ましいです。</p>						
教科書 Textbook(s)	<p>毎回の授業で配るプリントを教科書にかえます。</p>						
参考書 Reference(s)	<p>授業中に適宜紹介します。</p>						
備考 Remarks							

科目区分	国文学科専門教育科目						
科目名	国文学科第1演習B						
担当教員	秋本 鈴史						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	木曜3	配当学年	3~4	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	『世間娘容気』 江戸時代の浮世草子『世間娘容気』（せけんむすめかたぎ）を読む。井原西鶴以後の浮世草子作者は江島其碩（えじまきせき）を中心として展開した。その其碩の代表作の一つである本作は、享保二年（1717）に刊行された。江戸時代の同年代の女性がどのように考え、行動していたのかを考える。なお12月には、ゼミ恒例の歌舞伎鑑賞（顔見世興行）を行う予定。
授業計画 Syllabus	第1回 浮世草子概説 第2回 『世間娘容気』 巻1 第1話1 第3回 『世間娘容気』 巻1 第1話2 第4回 『世間娘容気』 巻1 第2話1 第5回 『世間娘容気』 巻1 第2話2 第6回 『世間娘容気』 巻1 第3話1 第7回 『世間娘容気』 巻1 第3話2 第8回 『世間娘容気』 巻2 第1話1 第9回 『世間娘容気』 巻2 第1話2 第10回 『世間娘容気』 巻2 第2話1 第11回 『世間娘容気』 巻2 第2話2 第12回 『世間娘容気』 巻2 第3話1 第13回 『世間娘容気』 巻2 第3話2 第14回 事実と虚構 第15回 浮世草子と演劇
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	演習
評価方法 Evaluation	発表による
履修上の注意 Requirements and policy	出席重視。毎時間、積極的に参加することが重要。
教科書 Textbook(s)	プリントを配布
参考書 Reference(s)	
備考 Remarks	

科目区分	国文学科専門教育科目						
科目名	国文学科第1演習B						
担当教員	田中 まき						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	木曜2	配当学年	3~4	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	<p>『伊勢物語』を読む。 平安時代の歌物語である『伊勢物語』の演習をおこなう。 『伊勢物語』は在原業平とおぼしき「男」を主人公にした歌物語である。 その男の様々な女性との恋のやり取り、惟喬親王や友人との心結ばれた関係などが百二十五章段に描かれている。</p> <p>本演習では、この『伊勢物語』を読んで、物語がどのように作られていったのか、生成の問題を考え、また、伊勢物語絵巻や古注釈書に注目して、物語がどのように享受され、絵などにも反映されているかについて考えていきたい。</p>
授業計画 Syllabus	<p>第1回 『伊勢物語』の享受についての講義 第2回 『伊勢物語』第41段についての演習 第3回 『伊勢物語』第63段についての演習 第4回 『伊勢物語』第69段①についての演習 第5回 『伊勢物語』第69段②についての講義 第6回 『伊勢物語』第82段①についての演習 第7回 『伊勢物語』第82段②についての演習 第8回 『伊勢物語』第83段についての演習 第9回 『伊勢物語』第87段①についての演習 第10回 『伊勢物語』第87段②についての演習 第11回 『伊勢物語』第101段についての演習 第12回 『伊勢物語』第107段についての演習 第13回 『伊勢物語』第123段についての演習 第14回 『伊勢物語』第125段についての演習 第15回 『伊勢物語』の享受についてのまとめ</p>
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	講義と演習
評価方法 Evaluation	演習の発表内容、演習に対する取り組みや態度。
履修上の注意 Requirements and policy	遅刻、欠席を厳に慎むこと。特に無断欠席は厳禁。 なお、テーマに関連する京都方面への文学散策を予定している。
教科書 Textbook(s)	
参考書 Reference(s)	
備考 Remarks	

科目区分	国文学科専門教育科目						
科目名	国文学科第1演習B						
担当教員	村上 敬一						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	木曜3	配当学年	3~4	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	<p>【目的】日本語の多様性についての理解を深める。 【概要】前期に定めた各自の研究テーマにしたがって、調査・資料収集などを行い、各自が演習形式で発表し、討論を行う。</p>
授業計画 Syllabus	<p>第1回 調査結果のまとめ方（談話分析編） 第2回 調査結果のまとめ方（計量調査編） 第3回 個人別演習発表① 第4回 個人別演習発表② 第5回 個人別演習発表③ 第6回 個人別演習発表④ 第7回 個人別演習発表⑤ 第8回 個人別演習発表⑥ 第9回 個人別演習発表⑦ 第10回 個人別演習発表⑧ 第11回 個人別演習発表⑨ 第12回 個人別演習発表⑩ 第13回 個人別演習発表⑪ 第14回 卒業論文に向けて① 第15回 卒業論文に向けて②</p>
参照URL Referance URL(s)	
授業方法 Class type	各回ごとに担当者を決めて、個人別の演習発表を行う。
評価方法 Evaluation	演習の発表内容（60%）出席（40%）
履修上の注意 Requirements and policy	演習に際して、発表者には入念な準備と、参加者には活発な討論を期待する。
教科書 Textbook(s)	授業中に紹介する。
参考書 Reference(s)	授業中に紹介する。
備考 Remarks	

科目区分	国文学科専門教育科目						
科目名	国文学科第1演習B						
担当教員	吉井 健						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	木曜2	配当学年	3~4	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	ことばの論理を説明する Aで学んだ研究の方法に基づいて、個々の具体的なテーマについて発表形式で授業を行う。 発表者は自分の意図が明確に伝わるように資料を用意し、発表者以外の学生は建設的なコメントができるよう準備をする。
授業計画 Syllabus	1) 個人発表 1 2) 個人発表 2 3) 個人発表 3 4) 個人発表 4 5) 個人発表 5 6) 個人発表 6 7) 個人発表 7 8) 個人発表 8 9) 個人発表 9 10) 個人発表 10 11) 個人発表 11 12) 個人発表 12 13) 発表の問題の整理・解説 14) テーマの再検討 (卒業論文に向けて) 15) 質問・予備日 (レポート提出期限)
参照URL Reference URL (s)	
授業方法 Class type	発表形式
評価方法 Evaluation	発表や質疑の内容・レポート60% 平常点40%
履修上の注意 Requirements and policy	演習は参加者全員が作り上げてゆくものである。欠席は相応の理由がない限り許されない。 万が一欠席の場合は必ず連絡をすること。 必要に応じ学外研修を行う。
教科書 Textbook (s)	
参考書 Reference (s)	クリティカル・シンキング (入門編) 著 E・B・ゼックミスタ、J・E・ジョンソン (北大路書房)
備考 Remarks	参考書は必ずしも購入の必要はない。

科目区分	国文学科専門教育科目						
科目名	国文学科第2演習B						
担当教員	青木 稔弥						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	月曜4	配当学年	4	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	夏目漱石等著名作家の作品を読む。 各自が任意に選択した作品について発表してもらうことにする。 適宜、他の諸作家の諸作品、文学思潮等にも及ぶこととする。
授業計画 Syllabus	第1回 ガイダンス 第2回 文学者とは？ 第3回 第一の作品についての発表 第4回 第二の作品についての発表 第5回 第三の作品についての発表 第6回 第四の作品についての発表 第7回 第五の作品についての発表 第8回 第六の作品についての発表 第9回 第七の作品についての発表 第10回 第八の作品についての発表 第11回 第九の作品についての発表 第12回 第十の作品についての発表 第13回 日本の近代文学 第14回 日本の現代文学 第15回 まとめ
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	演習形式
評価方法 Evaluation	発表50%と日常的な授業に対する取組状況等の評価50%
履修上の注意 Requirements and policy	幅広い読書と旺盛な好奇心が必要
教科書 Textbook(s)	特に指定せず
参考書 Reference(s)	
備考 Remarks	

科目区分	国文学科専門教育科目						
科目名	国文学科第2演習B						
担当教員	秋本 鈴史						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	月曜3	配当学年	4	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	『心中大鏡』と歌舞伎・人形浄瑠璃 『心中大鏡』の描かれた心中事件の中には歌舞伎や人形浄瑠璃に仕組まれたものがある。これらの物語を元にした演劇作品を読み、『心中大鏡』の記述と比較検討することで、当時の人々がこれら事件をどのようにとらえていたのかを考えてみたい。
授業計画 Syllabus	第1回 浄瑠璃『大経師昔暦』（石津屋市郎兵衛と兄嫁おさん）1 第2回 浄瑠璃『大経師昔暦』（石津屋市郎兵衛と兄嫁おさん）2 第3回 浄瑠璃『大経師昔暦』（石津屋市郎兵衛と兄嫁おさん）3 第4回 浄瑠璃『大経師昔暦』（石津屋市郎兵衛と兄嫁おさん）4 第5回 浄瑠璃『大経師昔暦』（石津屋市郎兵衛と兄嫁おさん）5 第6回 浄瑠璃『大経師昔暦』（石津屋市郎兵衛と兄嫁おさん）6 第7回 浄瑠璃『心中涙の玉井』（堺の帯屋久兵衛とひし屋おはつ）1 第8回 浄瑠璃『心中涙の玉井』（堺の帯屋久兵衛とひし屋おはつ）2 第9回 浄瑠璃『心中涙の玉井』（堺の帯屋久兵衛とひし屋おはつ）3 第10回 浄瑠璃『心中涙の玉井』（堺の帯屋久兵衛とひし屋おはつ）4 第11回 浄瑠璃『心中涙の玉井』（堺の帯屋久兵衛とひし屋おはつ）5 第12回 浄瑠璃『心中涙の玉井』（堺の帯屋久兵衛とひし屋おはつ）6 第13回 『心中大鏡』の人物描写 第14回 事実と虚構 第15回 浮世草子と演劇 まとめ
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	演習
評価方法 Evaluation	発表による
履修上の注意 Requirements and policy	出席重視。毎時間、積極的に参加することが重要。
教科書 Textbook(s)	プリントを配布
参考書 Reference(s)	
備考 Remarks	

科目区分	国文学科専門教育科目						
科目名	国文学科第2演習B						
担当教員	片岡 利博						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	金曜2	配当学年	4	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	国文学科第2演習Aの続き
授業計画 Syllabus	1) 巻四の調査報告 (1) 2) 巻四の調査報告 (2) 3) 巻四の調査報告 (3) 4) 巻四の調査報告 (4) 5) 調査結果の検討と反省 6) 巻四の再調査報告 (1) 7) 巻四の再調査報告 (2) 8) 全四巻の調査結果の統合 (1) 9) 全四巻の調査結果の統合 (2) 10) 不備な点についての再調査 (1) 11) 不備な点についての再調査 (2) 12) 全四巻の調査報告書の作成 (1) 13) 全四巻の調査報告書の作成 14) 演習の総括 15) 演習の反省
参照URL Referance URL(s)	
授業方法 Class type	各自が分担箇所を調査し、報告する。調査結果については全員で検討する。
評価方法 Evaluation	調査報告の手際よさ、40% ディスカッションでの積極的な発言、40% 期末レポート、20%
履修上の注意 Requirements and policy	各自の責任を自覚し、積極的に授業に臨むこと。
教科書 Textbook(s)	とくになし
参考書 Reference(s)	教室で適宜指示する。
備考 Remarks	

科目区分	国文学科専門教育科目						
科目名	国文学科第2演習B						
担当教員	下田 美津子						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	月曜3	配当学年	4	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	前期に続き卒業研究に向けた演習。特に用例の採集方法と採集した用例をどのような視点、枠組みで分析するかなど含めて、論文を書くための技法を身につける。各自のテーマにそった先行論文についても概説する。
授業計画 Syllabus	第1回 夏期レポートの講評と問題点の発見 (1) 第2回 夏期レポートの講評と問題点の発見 (2) 第3回 夏期レポートの講評と問題点の発見 (3) 第4回 用例採集の方法と予備調査法の指導 (1) 第5回 用例採集の方法と予備調査法の指導 (2) 第6回 用例採集の方法と予備調査法の指導 (3) 第7回 各自のテーマでの発表と質疑応答 (1) 第8回 各自のテーマでの発表と質疑応答 (2) 第9回 各自のテーマでの発表と質疑応答 (3) 第10回 各自のテーマでの発表と質疑応答 (4) 第11回 各自のテーマでの発表と質疑応答 (5) 第12回 各自のテーマでの発表と質疑応答 (6) 第13回 各自のテーマでの発表と質疑応答 (7) 第14回 各自のテーマでの発表と質疑応答 (8) 第15回 第2演習のまとめと振り返り
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	講義、各自の発表と質疑応答
評価方法 Evaluation	平常点30%、レポート等の課題40%、口頭発表30%
履修上の注意 Requirements and policy	出席を重視する
教科書 Textbook(s)	プリント配布
参考書 Reference(s)	
備考 Remarks	

科目区分	国文学科専門教育科目						
科目名	国文学科第2演習B						
担当教員	田中 まき						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	月曜2	配当学年	4	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	我が国の古典文学の中で屹立する存在である『源氏物語』の演習をおこなう。 『源氏物語』は千年の間、連続と読み継がれ、後世の文学や文化全般に多大な影響を及ぼしてきた。 本演習では、その『源氏物語』の魅力を明らかにできるように読んでいきたい。 ただし『源氏物語』は五十四帖にも及ぶ大部な物語なので、授業でその全体を見渡すのは難しい。 そこで、本演習の後期授業では、光源氏亡きあとの物語を読んでいきたい。 特に、葦、匂宮と宇治の姫君たちとの物語を中心に取り上げる。
授業計画 Syllabus	第1回 『源氏物語』 諸本の問題点についての講義 第2回 『源氏物語』 匂宮巻の演習 第3回 『源氏物語』 紅梅巻の演習 第4回 『源氏物語』 竹河巻の演習 第5回 『源氏物語』 橋姫巻の演習 第6回 『源氏物語』 椎本巻の演習 第7回 『源氏物語』 総角巻の演習 第8回 『源氏物語』 早蕨巻の演習 第9回 『源氏物語』 宿木巻の演習 第10回 『源氏物語』 東屋巻の演習 第11回 『源氏物語』 浮舟巻の演習 第12回 『源氏物語』 蜻蛉巻の演習 第13回 『源氏物語』 手習巻の演習 第14回 『源氏物語』 夢浮橋巻の演習 第15回 『源氏物語』 第3部の本文、諸本についてのまとめ
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	講義と演習
評価方法 Evaluation	演習の発表内容。演習に対する取り組みや態度。
履修上の注意 Requirements and policy	遅刻、欠席を厳に慎むこと。 なお、テーマに関連する京都方面への文学散策を予定している。
教科書 Textbook(s)	
参考書 Reference(s)	
備考 Remarks	

科目区分	国文学科専門教育科目						
科目名	国文学科第2演習B						
担当教員	村上 敬一						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	水曜3	配当学年	4	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	<p>応用日本語学（社会言語学、方言学、日本語教育学など）にかかわる以下の問題を研究する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 言語行動（場面・状況によることばづかい、敬語の運用） 2. 言語接触（方言と、共通語・標準語の使い分け、中間方言など） 3. 言語変化（伝統的方言の共通語化、移住によることばの変化など） 4. 言語意識（ことばづかいを支える規範意識、アイデンティティなど） 5. 言語習得（幼児の母語習得、中間言語など） 6. 属性とことば（若者語、女性語、キャンパスことばなどの集団語）
授業計画 Syllabus	<p>第1回 調査結果のまとめ方① 第2回 調査結果のまとめ方② 第3回 個人別の演習発表① 第4回 個人別の演習発表② 第5回 個人別の演習発表③ 第6回 個人別の演習発表④ 第7回 個人別の演習発表⑤ 第8回 個人別の演習発表⑥ 第9回 個人別の演習発表⑦ 第10回 個人別の演習発表⑧ 第11回 個人別の演習発表⑨ 第12回 個人別の演習発表⑩ 第13回 個人別の演習発表⑪ 第14回 個人別の演習発表⑫ 第15回 まとめ・卒論反省会</p>
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	演習形式
評価方法 Evaluation	演習の発表内容（60%）出席（40%）
履修上の注意 Requirements and policy	発表者には入念な準備、参加者には活発な討論を期待する。
教科書 Textbook(s)	授業中に紹介する
参考書 Reference(s)	授業中に紹介する
備考 Remarks	

科目区分	国文学科専門教育科目						
科目名	国文学科第2演習B						
担当教員	吉井 健						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	月曜2	配当学年	4	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	卒業論文執筆との視野を広げるため、現代日本語の基礎知識を確認する。
授業計画 Syllabus	1) 夏期休暇中の勉強の報告 1 2) 夏期休暇中の勉強の報告 2 3) ~ 7) 演習発表 8) 補足発表 9) ~ 13) 演習発表 14) 補足発表 15) まとめ
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	発表形式
評価方法 Evaluation	発表や質疑の内容60% 平常点40%
履修上の注意 Requirements and policy	無断欠席厳禁。 就職活動などやむ得ない場合も必ずその旨申し出ること。
教科書 Textbook(s)	
参考書 Reference(s)	授業中に紹介する。
備考 Remarks	

科目区分	国文学科専門教育科目						
科目名	国文学史B						
担当教員	秋本 鈴史						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	水曜3	配当学年	2~4	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	日本文学の歴史を、日本の歴史の流れに位置づけながら学ぶ。後期は「ものがたり」の系譜に属する文学を扱う。中国の漢字しか知らなかった時代から、語り伝えられた「ものがたり」は漢字を用いて記録された。「ひらがな」という新たな表現手段を獲得した平安時代になると「ものがたり」は女性の手によって飛躍的に拡大する。しかし武士階層の台頭とともに「ものがたり」は戦いの記録へと変わって行く。漢字と「かたかな」主体の簡潔な文体が登場し、ひらがなの「ものがたり」と交流しながら、「ものがたり」の世界を拓けて行く。やがて文芸の大衆化と共に、御伽草子や仮名草子を生み、浮世草子、読本などへつながって行く。一方で「ものがたり」は演劇の世界にも能や狂言、さらには歌舞伎や浄瑠璃などの世界を切り開いて行く。
授業計画 Syllabus	第1回 古代の物語 『古事記』 1 第2回 古代の物語 『古事記』 2 第3回 王朝の物語 歌物語 第4回 王朝の物語 『源氏物語』 1 第5回 王朝の物語 『源氏物語』 2 第6回 仏教と物語 第7回 中世の物語 『平家物語』 第8回 中世の物語 軍記物語 第9回 中世の物語 御伽草子 第10回 近世の物語 浮世草子 第11回 近世の物語 読本・草双紙 第12回 中世の演劇 能と狂言 第13回 近世の演劇 歌舞伎 第14回 近世の演劇 浄瑠璃 第15回 まとめと試験
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	講義
評価方法 Evaluation	出席30% 期末試験70%
履修上の注意 Requirements and policy	出席重視。高校までで使用した日本史の資料（種類は問わないが年表を含むこと）を持参すること
教科書 Textbook(s)	『日本古典読本』秋山虔・桑名靖治・鈴木日出男著 筑摩書房 ISBN: 448091708X
参考書 Reference(s)	
備考 Remarks	

科目区分	国文学科専門教育科目						
科目名	古典入門						
担当教員	片岡 利博						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	水曜2	配当学年	1~4	単位数	2.0
授業の目的、概要 Objectives and content	高校生用の問題集を教科書として用いるが、授業内容は高校での古文とはまったく異なる。問題集にとりあげられた古典作品を材料にして、大学で古典について学んでいくために必要な最低限の知識を身につけることを目的とする。						
授業計画 Syllabus	1) 国文学における時代区分とジャンル 2) 土佐日記を材料にして 3) 沙石集を材料にして 4) 折りたく柴の記を材料にして 5) 枕草子を材料にして 6) 宇治拾遺物語を材料にして 7) 竹取物語を材料にして 9) うつほ物語を材料にして 10) 大鏡を材料にして 11) 紫式部日記を材料にして 12) 大和物語を材料にして 13) 源平盛衰記を材料にして 14) 栄花物語を材料にして 15) 全般にわたるおぼいと期末テスト						
参照URL Reference URL(s)							
授業方法 Class type	講読を交えながら、さまざまなトピックについて講義する。						
評価方法 Evaluation	出席点60%。期末テスト40% 試験時は、教科書・ノート・配布したプリントの持ち込みを許可する。						
履修上の注意 Requirements and policy	予習の必要はまったくない。ただ、授業に欠席せず、しっかり復習すること。						
教科書 Textbook(s)	『マーク式基礎問題集19 古文』（河合出版）ISBN978-4-7772-0270-6						
参考書 Reference(s)	適宜、教室で紹介する。						
備考 Remarks							

科目区分	国文学科専門教育科目						
科目名	古典文学を学ぶB／平安の文学B						
担当教員	片岡 利博						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	木曜3	配当学年	3～4	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	前期に引き続き、能因本枕草子を読む 清少納言の枕草子を、世間で普通に読まれている枕草子とは内容の異なる能因本のテキストで読みながら、平安貴族社会の文化について学ぶ。あわせて枕草子という作品の傑出した文芸性についても講義する。
授業計画 Syllabus	1) 受講に際しての注意事項・枕草子と能因本枕草子について(1) 2) 枕草子と能因本枕草子について(2)・321段～323段 3) 193・195・200・202段 4) 225段 5) 22段(1) 6) 22段(2)・21段 7) 28段 8) これまでのまとめと中間テスト 9) 91段(1) 10) 91段(2) 11) 91段(3) 12) 106・134段 13) 182段(1) 14) 182段(2) 15) これまでのまとめと期末テスト
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	講読と講義
評価方法 Evaluation	期間中2回のテストの成績によって評価する。試験時には教科書と配布したプリントのみ持ち込みを許可する。ノートの持ち込みは不可。
履修上の注意 Requirements and policy	出席はとらないが、通行の枕草子とは異なるテキストを用いての講義なので、欠席がかさむと単位修得は難しいものと了解されたい。 授業で配布したプリントの追加配給はいっさいしないので、欠席した場合は各自でしかるべく入手すること。 初めに受講に際しての注意事項を確認する。注意事項を守れない者については、受講を認めない。
教科書 Textbook(s)	松尾聡・永井和子編『枕草子〔能因本〕』（笠間書院・笠間文庫・2500円）ISBN978-4-305-70422-1
参考書 Reference(s)	教室で随時紹介する。
備考 Remarks	

科目区分	国文学科専門教育科目						
科目名	古典文学を学ぶD／近世の文学B						
担当教員	秋本 鈴史						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	月曜2	配当学年	3～4	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	<p>近世演劇研究12-2 江戸時代を代表する歌舞伎と人形浄瑠璃の歴史を考える。特に二つの芸能の交流に着目し、三百年以上の間、社会の最先端の文化の一つとして活動を継続してきた軌跡を考察する。浄瑠璃や歌舞伎という芸能が17世紀初め頃に誕生してから、さまざまな紆余曲折を経ながら江戸時代という時代の中で大衆の中に定着してゆく。本講義は、その過程について特に成立期から元禄・享保期までを中心に、主に人形浄瑠璃の盛衰を柱に検討を加える連続講義の一環である。本年度は、昨年度の宝永初期の考察に引き続き、宝永期に起こる新たな演劇界の動きについて考察する。後期は時代物に続き、世話物を中心に、芸能が新たな展開を見せる時代の変化を作品を通して考察する。</p>
授業計画 Syllabus	<p>第1回 宝永期の浄瑠璃界 第2回 『雪女五枚羽子板』の概要1 第3回 『雪女五枚羽子板』の概要2 第4回 『雪女五枚羽子板』の概要3 第5回 『雪女五枚羽子板』の概要4 第6回 世話物の世界 第7回 世話物の展開1 『心中万年草』1 第8回 世話物の展開2 『心中万年草』2 第9回 世話物の展開3 『心中万年草』3 第10回 古典と世話浄瑠璃 第11回 世話物の展開4 『淀鯉出世滝徳』1 第12回 世話物の展開5 『淀鯉出世滝徳』2 第13回 世話物の展開6 『淀鯉出世滝徳』3 第14回 時代物と世話物 第15回 まとめと筆記試験</p>
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	講義
評価方法 Evaluation	出席30% 期末試験70%
履修上の注意 Requirements and policy	日本の古典芸能に関する予備知識は特に必要ないが、芸能や演劇（現代のものも含む）に対する関心や好奇心を持っていること。
教科書 Textbook(s)	プリントを配布
参考書 Reference(s)	
備考 Remarks	

科目区分	国文学科専門教育科目						
科目名	古典文学を読むB						
担当教員	田中 まき						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	水曜2	配当学年	2~4	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	<p>『大和物語』講読 平安時代の歌物語である『大和物語』を講読する。 『大和物語』百七十三章段のうち、百四十章段あまりの前半は当代（平安時代前期）の人々の歌語りの集積であり、後半は古代の伝承を中心とした昔語りの集積である。 この授業では、それらの特徴を考えながら読み進め、さらには、それぞれの章段に現れている、恋や友情、宮廷生活や夫婦のあり方、装束や住まいなど、様々な面から平安貴族の生活の様相を探って行きたい。</p>
授業計画 Syllabus	<p>第1回 平安時代の物語文学の概観についての講義 第2回 『大和物語』についての講義 第3回 第一段の講義 第4回 第二・三段の講読 第5回 第四・八段の講読 第6回 第二十五・二十七段の講読 第7回 第二十九・三十段の講読 第8回 第四十一・四十二段の講読 第9回 第四十五・五十八段の講読 第10回 第七十・七十六・七十七段の講読 第11回 第九十一・九十九段の講読 第12回 第百四十七段前半の講読 第13回 第百四十七段後半の講読 第13回 第百四十九段の講読 第14回 まとめと試験 第15回 復習と『大和物語』についてのまとめ</p>
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	講義と講読（受講者による担当発表）
評価方法 Evaluation	期末試験（70%）、担当発表の内容（20%）、平常点（10%）によって評価する。
履修上の注意 Requirements and policy	<p>各自に発表を課す。 遅刻、欠席は厳に慎むこと。 3分の1以上、欠席した場合は期末考査を受ける資格がないものとする。</p>
教科書 Textbook(s)	校注大和物語 柳田忠則編(新典社) 978-4-7879-0805-6
参考書 Reference(s)	
備考 Remarks	

科目区分	国文学科専門教育科目						
科目名	古典文学を読むD						
担当教員	秋本 鈴史						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	水曜4	配当学年	2~4	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	<p>浮世草子 江戸時代に作られた、井原西鶴の「恋」にまつわる浮世草子を読む。</p> <p>1 「後は様つけて呼ぶ」…『好色一代男』にある、遊女吉野の物語。 2 「恋草からげし八百屋物語」…恋した男に会いたい一心で放火する八百屋お七の物語。 3 「忍び扇の長歌」…『西鶴諸国ばなし』にある姫君と下男の悲劇の恋物語。</p>
授業計画 Syllabus	<p>第1回 浮世草子について 第2回 「後は様つけて呼ぶ」 1 第3回 「後は様つけて呼ぶ」 2 第4回 「後は様つけて呼ぶ」 3 第5回 「後は様つけて呼ぶ」 4 第6回 「恋草からげし八百屋物語」 1 第7回 「恋草からげし八百屋物語」 2 第8回 「恋草からげし八百屋物語」 3 第9回 「恋草からげし八百屋物語」 4 第10回 江戸時代の社会制度 第11回 「忍び扇の長歌」 1 第12回 「忍び扇の長歌」 2 第13回 「忍び扇の長歌」 3 第14回 「忍び扇の長歌」 4 第15回 江戸時代の文学</p>
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	演習形式。ただし一部講義形式。
評価方法 Evaluation	出席20%、担当30%、期末試験50%
履修上の注意 Requirements and policy	出席重視。毎時間、積極的に参加することが重要。
教科書 Textbook(s)	プリントを配布
参考書 Reference(s)	
備考 Remarks	

科目区分	国文学科専門教育科目						
科目名	ことばの調べ方／国語学講読B						
担当教員	吉井 健						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	月曜3	配当学年	2～4	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	現代日本語について考える場合にも、内省だけではなく、使用実態などについてのデータを集めることが必須である。この授業では、具体的な問題をいくつか設定し、ことばについて調べる手段を解説する。アンケート調査もそういった手段の一つであるが、この授業では文献や電子テキスト、インターネットなどを用いて調べる場合を中心として考える。
授業計画 Syllabus	<p>第1回 何のために調べるのか？</p> <p>第2回 調べるツール 文献活用篇 日本国語大辞典 その1</p> <p>第3回 日本国語大辞典 その2</p> <p>第4回 逆引き辞典・類語辞典・シソーラス</p> <p>第5回 古語辞典 索引・インデックス</p> <p>第6回 時代別古語辞典 各時代の辞書類</p> <p>第7回 その他、事典類など</p> <p>第8回 文献活用篇復習 まとめ</p> <p>第7回 調べるツール パソコン活用篇 CD-ROM版テキストデータ1</p> <p>第8回 CD-ROM版テキストデータ2</p> <p>第9回 ネット上のデータ1 検索の工夫</p> <p>第10回 ネット上のデータ2 新聞・青空文庫</p> <p>第11回 ネット上のデータ3 国会会議録</p> <p>第12回 ネット上のデータ4 その他のコーパス等</p> <p>第13回 パソコン活用篇復習 まとめ</p> <p>第14回 アンケート・対面調査</p> <p>第15回 総まとめ</p>
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	講義および発表
評価方法 Evaluation	調査課題についての発表とレポート70% 平常点30%
履修上の注意 Requirements and policy	特になし
教科書 Textbook(s)	プリント配布
参考書 Reference(s)	授業中に紹介する。
備考 Remarks	

科目区分	国文学科専門教育科目						
科目名	コミュニケーション演習B/コミュニケーション学特論D						
担当教員	吉岡 美賀子						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	火曜2	配当学年	2~4	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	放送におけるアナウンスメントの実践（その2） 発声練習をはじめ、発音、アクセント、滑舌など、アナウンスの基本に触れる。その後、アナウンスメントの応用となる、コマーシャル、中継リポートなどの実践に取り組む。（原稿は、自分で作ることになる。）
授業計画 Syllabus	<ol style="list-style-type: none"> 1 講義内容説明 発声練習 2 発声練習 発音講義 3 アクセント講義 4 CM読み① 5 CM読み② 6 CM録音 7 CM振り返り 8 リポート 9 リポート実践① 10 リポート実践② 11 リポート振り返り 12 放送の言葉 13 朗読 14 朗読実践① 15 朗読実践② <p>（受講者数によって内容が前後することがあります。）</p> <p>《課題》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・リポート 題材は自由だが、実際に見てきた行事、もしくは場所であること。ラジオ中継という設定で、1分程度のリポートをする。 ・朗読 題材は自由。時間は2分程度。コピー、または手書きで原稿を作り、読みやすいように印や、読むときの工夫を書き込んでから、一部コピーしたものを発表時に提出すること。
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	演習
評価方法 Evaluation	実技40%、ミニレポート(授業の中で提出) 60%、欠席は減点。遅刻は3回で欠席1回と同等扱い。
履修上の注意 Requirements and policy	3分の2以上の出席と課題実技(朗読とリポート) がなければ、単位は認めない。
教科書 Textbook(s)	
参考書 Reference(s)	

備考 Remarks	
---------------	--

科目区分	国文学科専門教育科目						
科目名	社会言語学演習B						
担当教員	村上 敬一						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	火曜2	配当学年	3~4	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	<p>【目的】方言調査結果の集計と分析 【概要】社会言語学は、社会とのかかわりにおいて言語をとらえようとする研究分野である。この演習では、西日本における方言の動態を調査し、その結果をまとめることで、地域方言研究のあり方を具体的かつ体系的に習得することを目指す。後期は、夏休みに実施する方言調査結果の集計と分析の方法について、体系的に学ぶ。具体的には、エクセルを使ったデータ集計とグラフ作成、パワーポイントを使ったプレゼンテーション、ワードを使った報告書の作成を行う。</p> <p>※ 9月初旬に方言調査を行なう。詳細は別途指示する。</p>
授業計画 Syllabus	<p>第1回 調査票の回収 第2回 調査結果の集計① 第3回 調査結果の集計② 第4回 調査結果の集計③ 第5回 調査結果の集計④ 第6回 調査結果の集計⑤ 第7回 調査結果の集計⑥ 第8回 調査結果の分析① 第9回 調査結果の分析② 第10回 調査結果の分析③ 第11回 調査結果の分析④ 第12回 調査結果の分析⑤ 第13回 調査結果の発表① 第14回 調査結果の発表② 第15回 まとめ</p>
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	演習形式
評価方法 Evaluation	出席 (40%)、演習への取り組み (40%)、レポート (20%)
履修上の注意 Requirements and policy	調査の集計には、共同作業を伴う。共同作業に責任を負わない者の履修は、控えた方がよい。
教科書 Textbook(s)	プリントを配布するほか、授業中に紹介する。
参考書 Reference(s)	『社会言語学の展望』真田信治 (編) (くろしお出版) 『応用社会言語学を学ぶ人のために』 ダニエルロング・中井精一・宮治弘明 (編) (世界思想社)
備考 Remarks	

科目区分	国文学科専門教育科目						
科目名	書道講義A／書道概論						
担当教員	花田 尊文						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	月曜3	配当学年	1～4	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	<p>書論 本講では書論を中心に解説、考察したい。書論とは何か、どのような書論があるのか、特に「書譜」の読解に重点をおいて学習したい。</p>
授業計画 Syllabus	<p>本講では書論について学ぶ。書論とは文字どおり書を論じることであるが、その概念は極めて広い。単に書の意義を論ずるだけでなく、広く文字とか書体とか書法とか書品とかにも及び、更には書家の伝記や閑玩、鑑識、收藏のことまで含まれる。しかし、その核心的なものは書の本質を論ずることにある。書を学ぶ時、とかく実技にのみ専心しがちであるが、書を深めるためには、書の歴史や理論を究めることが必須の条件となる。日本における書論は殆ど不毛と言って良い。一方、中国ではおよそ漢代頃から書について様々に論じられるようになり、以後、多くの書論が生み出された。つまり、広く書について論述した著作のすべてを中国では書論と言うのである。そこで、書芸術論の古典的名著である「書譜」の講読を通して学習を進めたい。評価方法は平生点（主として出席と受講態度/講義内容・学生便覧参照）と期末の課題提出による。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 諸注意、伝達事項、シラバス配布と関連参考文献の紹介、授業の進め方について説明。書論について略説。 2. 講読。 3. 講読。 4. 講読。 5. 講読。 6. 講読。 7. 講読。 8. 講読。 9. 講読。 10. 講読。 11. 講読。 12. 講読。 13. 講読。 14. 講読。 15. 講読。まとめ。 <p>参考書紹介 書道全集・中国書道全集（平凡社） 書道芸術（中央公論社） 書学体系・研究編（特に第4巻・中国書論史概説 同朋出版） 中国書論体系（二玄社） 中国書論集（二玄社） 中国書道辞典（木耳社） 書道辞典（東京堂出版） 大漢和辞典・大漢語林（大修館書店） 字統（平凡社） 定本書道全集（河出書房） 中国の歴史/全10巻（講談社） 中国法書選#38・法書ガイド#38「書譜」（二玄社） 「書譜」書論双書（田邊萬平著 日本習字普及協会） 通解・孫過庭「書譜」（藤原楚水著 清雅堂） 中国書論体系・第2巻「唐 I」（中のP93～P177、書譜 二玄社）</p>
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	講義
評価方法 Evaluation	レポート（又はテスト）。平常点。
履修上の注意 Requirements and policy	出席3分の2以上必要。他人の迷惑になる行為は慎むこと。携帯電話の使用厳禁、教室内では電源を切りしなうこと。
教科書 Textbook(s)	<p>書名/中国法書ガイド38 書譜 出版社/二玄社 ISBN/4544021383</p> <p>必要に応じてプリントを配布する。</p>

参考書 Reference(s)	
備考 Remarks	

科目区分	国文学科専門教育科目						
科目名	書道実技（仮名B）						
担当教員	釣 年子						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	木曜3	配当学年	1～4	単位数	1.0

授業の目的、概要 Objectives and content	仮名一応用編 書道実技（仮名A）基礎の応用です。さまざまな書式を試みます。俳句、和歌の散らし書き構成法を学び、短冊、色紙、扇面などに挑戦します。美しい仮名の加工紙（料紙）も作ってみましょう。
授業計画 Syllabus	<ol style="list-style-type: none"> 1) 散らし書き一練習1「いろは」単体・連綿の復習 2) 散らし書き一練習2「和歌を書く」一部分練習 3) 散らし書き一練習3「和歌を書く」一構成を考える 4) 料紙を作ろう 5) 色紙に書く一散らし書きの清書「和歌を書く」一墨量、濃淡を生かす 6) 色紙に書く一散らし書きの清書一料紙に書く 7) 短冊に書く一1一俳句または和歌を作ろう 8) 短冊に書く一2一短冊に書く形式を学ぶ 9) 短冊に書く一3一俳句または和歌の清書 10) 年賀状を書こう 11) 料紙の年賀状を作ろう 12) 料紙の年賀状を書こう 13) 扇面一1一扇面の様々な種類を知ろう 14) 扇面一2一扇面に書く形式を学ぶ 15) 扇面一3一扇面の清書
参照URL Referance URL(s)	
授業方法 Class type	実技演習
評価方法 Evaluation	出席、提出作品、授業への取り組みを評価する
履修上の注意 Requirements and policy	書道用具を忘れたら、授業を受けられません。小筆（面相）を用意のこと。
教科書 Textbook(s)	プリントを配布します。授業中に紹介します
参考書 Reference(s)	
備考 Remarks	色紙・短冊・扇面など実習材料費として1000円必要です

科目区分	国文学科専門教育科目						
科目名	書道実技（硬筆）						
担当教員	室之園 裕美						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	金曜3	配当学年	1～4	単位数	1.0

授業の目的、概要 Objectives and content	硬筆での文字を正しく丁寧に、用途に応じて書けるように、そのポイントを習得し、集中力を身につける。基本事項として常用漢字の筆順や部首の復習、草書の読み、書写体旧字体、また硬筆検定試験2・3級の対策などを学習する。
授業計画 Syllabus	<ol style="list-style-type: none"> 1、硬筆学習のめざすもの 姿勢執筆の基本 2、楷書（基本点画、部分）の書き方、縦書きの書き方について 3、楷書（字形）の整え方について、横書きのかきかたについて 4、仮名の書き方について 5、行書（基本点画、部分）の書き方、縦書き文、漢字と仮名の調和について 6、行書（字形、変化）について 筆順について 7、漢字と仮名の調和、縦書き文、横書き文のまとめ 8、実用書①はがきの書き方について 9、実用書②掲示文の書き方について 10、草書の読みこなしに着いて 11、理論実技総合問題演習 12、理論実技総合問題演習 13、理論実技総合問題演習 14 理論実技総合問題演習 15、まとめ
参照URL Referance URL(s)	
授業方法 Class type	講義と実技による。
評価方法 Evaluation	授業態度・欠席率（理由なき欠席は授業への取り組みの姿勢の問題とする）・毎時間の提出物・テストによる総合評価。
履修上の注意 Requirements and policy	全授業の3分の1の欠席で不可。また、遅刻3回で1欠席。くれぐれも携帯電話のマナーを守る事。毎時間、教科書二冊、トレーシングペーパー、横書き日野ノート一冊を持ってくること。
教科書 Textbook(s)	「ペン習字の基本」 修文館出版株式会社 「ペン習字ノート」（「ペン習字の基本」準拠） 修文館出版株式会社
参考書 Reference(s)	
備考 Remarks	

科目区分	国文学科専門教育科目						
科目名	書道実技（硬筆）						
担当教員	室之園 裕美						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	金曜4	配当学年	1～4	単位数	1.0
授業の目的、概要 Objectives and content	硬筆での文字を正しく丁寧に、用途に応じて書けるように、そのポイントを習得し、集中力を身につける。基本事項として常用漢字の筆順や部首の復習、草書の読み、書写体旧字体、また硬筆検定試験2・3級にも対応できるように学習する。						
授業計画 Syllabus	<ol style="list-style-type: none"> 1、硬筆学習のめざすもの 姿勢執筆の基本 2、楷書（基本点画、部分）の書き方、縦書きの書き方について 3、楷書（字形）の整え方について、横書きの書き方について 4、仮名の書き方について 5、行書（基本点画、部分）の書き方、縦書き文、漢字と仮名の調和について 6、行書（字形、変化）について 筆順について 7、漢字と仮名の調和、縦書き文、横書き文のまとめ 8、実用書①はがきの書き方について 9、実用書②掲示文の書き方について 10、草書の読みこなしに着いて 11、理論実技総合問題演習 12、理論実技総合問題演習 13、理論実技総合問題演習 14 理論実技総合問題演習 15、まとめ 						
参照URL Referance URL (s)							
授業方法 Class type	講義と実技による。						
評価方法 Evaluation	授業態度・出席率（特別に理由がない場合、出席率も授業態度として考える）・毎時間の提出物・テストによる総合評価。						
履修上の注意 Requirements and policy	特別に理由がない欠席は授業態度の問題として考える。遅刻3回で1欠席。くれぐれも携帯電話のマナーを守る事。 毎時間、教科書二冊、トレーシングペーパー、横書きB罫ノート一冊を持ってくること。						
教科書 Textbook (s)	「ペン習字の基本」 修文館出版株式会社 「ペン習字ノート」（「ペン習字の基本」準拠） 修文館出版株式会社						
参考書 Reference (s)							
備考 Remarks							

科目区分	国文学科専門教育科目						
科目名	書道実技（作品制作）						
担当教員	花田 尊文						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	月曜4	配当学年	3~4	単位数	1.0

授業の目的、概要 Objectives and content	制作（自分自身の力で書の作品を創る）
授業計画 Syllabus	<p>これまでの学習、経験をもとに作品制作を目指す。各人の個性、嗜好、特技を重視し、各種古典を基礎に、書美の理解と鑑賞眼を高め、書技向上を目標とした演習と解説を行い、書の作品を制作する方法、考え方など助言指導する。 評価方法は平生点（主として出席と受講態度/講義内容・学生便覧参照）と期末の作品提出による。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 書譜以外の草書の名品について（書道の古典参照）解説。他の草書古典（十七帖など）の臨書演習。 ② 臨書演習（前回の続き）。 ③ 臨書演習（前回の続き）、提出。（次回予告） ④ 自由制作とその計画書作製について説明。様々な書の古典、その制作への応用について解説。自由制作草稿作成準備指導。 ⑤ 自由制作準備。各自選択古典の臨書演習（半紙）。 ⑥ 臨書演習（前回の続き）。 ⑦ 臨書演習（前回の続き）。 次回予告（資料作りについて）。 ⑧ 自由制作草稿確認、指導助言。 ⑨ 自由制作着手。 ⑩ 自由制作演習（前回の続き）。 ⑪ 自由制作演習（前回の続き）。 ⑫ 自由制作演習（前回の続き）。 ⑬ 自由制作演習（前回の続き）。 ⑭ 自由制作演習。（完成予定） ⑮ 予備日
参照URL Referance URL(s)	
授業方法 Class type	演習中心。解説、講義、助言、指導も行う。
評価方法 Evaluation	作品の提出、平生点。
履修上の注意 Requirements and policy	書道の基礎と楷書A・B（書道Ⅰ）、又は書道実技・行書（書道Ⅱ）を既修していること。出席3分の2以上必要。忘れ物をしないこと。携帯電話の使用厳禁、教室内では電源を切りしなうこと。他人の迷惑になる行為は慎むこと。
教科書 Textbook(s)	なし
参考書 Reference(s)	書名/書道の古典(全三冊) 著訳編註名/大東文化大学書道研究所 出版社/二玄社 ISBN/4544014336
備考 Remarks	

科目区分	国文学科専門教育科目						
科目名	書法の基礎と楷書B						
担当教員	花田 尊文						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	月曜1	配当学年	1~4	単位数	1.0

授業の目的、概要 Objectives and content	<p>書法基礎（楷書）、書道の基礎知識 楷書は現代の正書体であるが、書体としては最後に出来たもので、それ以後、新しい書体は出来ていない。日常生活に於ても、義務教育での書写に於ても楷書の重要性は論を待たないものである。本講では「楷書A」をうけて「九成宮醜泉銘」以外の楷書古典の臨書も取り入れ、書法修得と共にその書美を研究し理解を深める。</p>
授業計画 Syllabus	<p>前期の「書法の基礎と楷書A」を受けて「九成宮醜泉銘」以外の楷書の古典を対象に学習する。解説と演習を通じて多様な書美を理解し、書法を修得習熟したい。 評価方法は平生点（主として出席と受講態度/講義内容・学生便覧参照）と期末の作品提出による。必要に応じレポート提出、習作提出も実施の予定。 以下毎回の授業予定を記すが進行が遅れた場合は順次繰り下げて実施する。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 他の楷書古典の名品について（書道の古典参照、VTRも利用）解説。臨書演習に入る。 ② 臨書演習（前回の続き）。 ③ 臨書演習（前回の続き）。 ④ 臨書演習。（前回の続き）提出。 ⑤ 楷書の特徴別の種類について解説。更に未習の古典について臨書演習。 ⑥ 臨書演習（前回の続き）。 ⑦ 臨書演習（前回の続き）。 ⑧ 臨書演習（前回の続き）、提出。 ⑨ 楷書書法の応用と展開。小楷演習。 ⑩ 演習（前回の続き）。 ⑪ 演習（前回の続き）、提出。 ⑫ 楷書書法の応用と展開。自由演習。 ⑬ 演習（前回の続き）。 ⑭ 書の定義、書道教育、書の鑑賞について講義。 ⑮ 予備日 <p>参考書紹介 中国法書選・法書ガイド（二玄社） 書跡名品叢刊（二玄社） 書道の古典/全三巻（二玄社） 書道全集・中国書道全集（平凡社） 書道芸術（中央公論社）</p>
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	臨書演習中心。講義、解説も織りまぜる。
評価方法 Evaluation	作品の提出、平生点。
履修上の注意 Requirements and policy	「楷書A・B」と通しての選択を望む。出席3分の2以上必要。教科書、半紙、書道用具等の忘れ物をしないこと。携帯電話の使用厳禁、教室内では電源を切りししまうこと。私語禁止。他人の迷惑になる行為は慎むこと。
教科書 Textbook(s)	<p>授業に際して忘れずに持参すること。必要に応じプリントを配布する。</p> <p>書名/書道の古典(全三冊) 著訳編註名/大東文化大学書道研究所 出版社/二玄社 ISBN/4544014336</p>
参考書 Reference(s)	

備考 Remarks	
---------------	--

科目区分	国文学科専門教育科目						
科目名	中国文学史B						
担当教員	青木 稔弥						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	金曜4	配当学年	2~4	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	中国文学の歴史 日本と中国は密接なつながりがあります。 この授業では日本と中国のつながりを文学史の観点から読み解きます。 中国文学史Aを受けて、より具体的に進めていきます。
授業計画 Syllabus	第1回 ガイダンス 第2回 日本文学史との関係 第3回 世界文学史 第4回 韻文作品1 第5回 韻文作品2 第6回 韻文作品3 第7回 韻文作品4 第8回 韻文作品5 第9回 散文作品1 第10回 散文作品2 第11回 戯曲 第12回 現代へ 第13回 一応のまとめと筆記試験 第14回 筆記試験に関する質疑応答 第15回 総まとめ
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	演習形式
評価方法 Evaluation	日常的な授業に対する取組状況等の評価50%と筆記試験50%
履修上の注意 Requirements and policy	積極的な授業参加が必要
教科書 Textbook(s)	中国文学史資料選〈古典篇〉 前野直彬 今西凱夫 編 東京大学出版会 ISBN:9784130820417 (4130820419)
参考書 Reference(s)	
備考 Remarks	

科目区分	国文学科専門教育科目						
科目名	地域文化論B						
担当教員	藤本 透子						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	火曜2	配当学年	2~4	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	<p>テーマ：地域社会に生きる～誕生から死まで</p> <p>誕生から死まで、人は誰もがなんらかのかたちで地域社会にコミットしながら生きている。この授業では、地域文化論Aに引き続き文化人類学のフィールドワークの手法を紹介しながら、日本を含めたアジア地域を中心に、地域社会に生きることがもつ意味について考える。具体的には、子どもの誕生と成長、病いと文化、結婚と性関係、死と葬送など、女性が地域社会で生きていくにあたって深く関わる事象をとりあげる。これらは人間に普遍的な生物学的現象であると同時に、社会的・文化的に多様な現れ方をするものでもある。人の一生をとおして、地域における社会と文化をとらえる分析力をつけることを目指す。</p>
授業計画 Syllabus	<p>第1回 地域社会における人の一生（イントロダクション）</p> <p>第2回 子どもの誕生と成長（1）誕生の社会的承認</p> <p>第3回 子どもの誕生と成長（2）さまざまな通過儀礼</p> <p>第4回 子どもの誕生と成長（3）通過儀礼としての割礼</p> <p>第5回 病いと文化（1）</p> <p>第6回 病いと文化（2）</p> <p>第7回 病いと文化（3）</p> <p>第8回 結婚と性関係（1）</p> <p>第9回 結婚と性関係（2）</p> <p>第10回 結婚と性関係（3）</p> <p>第11回 贈与交換と社会変容（1）</p> <p>第12回 贈与交換と社会変容（2）</p> <p>第13回 死の社会的・文化的理解（1）</p> <p>第14回 死の社会的・文化的理解（2）</p> <p>第15回 まとめ</p>
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	講義（わかりやすいよう映像も使い、一方的な講義ではなく、質疑応答や感想カードなどをとりいれた双方向の授業を行います）。
評価方法 Evaluation	授業への参加度（20%）、小テスト（20%）、学期末レポート（60%）
履修上の注意 Requirements and policy	質疑応答や感想カードの記入など、主体的な参加を求めます。
教科書 Textbook(s)	なし（授業中にプリントを配布します）。
参考書 Reference(s)	授業中に適宜紹介します。
備考 Remarks	

科目区分	国文学科専門教育科目						
科目名	日中対照言語学B						
担当教員	藤井 千枝						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	火曜4	配当学年	2~4	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	同時代の言語を比較対照する「対照言語学」は、外国語教育と密接につながる分野である。前半は、日本語教育現場、あるいは日本人の中国語学習の上で問題になる差異の中でも、「入門～初級期」の文法書で取り上げられる内容について、文法書のほか、学習者の誤用例を通して考察する。後半は、さらに踏み込んで論文をいくつか紹介する。論文は、受講生の関心によって、扱う時間数や内容を変更する可能性がある。(変更は授業で連絡します)
授業計画 Syllabus	<ol style="list-style-type: none"> 1. 対照言語学と比較言語学、第二言語習得、「語学力観」の変遷 2. 言語普遍論と相対論 3. 日中同形語・ほか(文法入門書より)① 4. 日中同形語・ほか(文法入門書より)② 5. 日中同形語・ほか(誤用分析)① 6. 日中同形語・ほか(誤用分析)② 7. 論文(語彙)大河内康憲「日本語と中国語の同形語」① 8. 論文(語彙)大河内康憲「日本語と中国語の同形語」② 9. 論文(文法)荒川清秀「日本語名詞のトコロ(空間)性—中国語との関連で—」① 10. 論文(文法)荒川清秀「日本語名詞のトコロ(空間)性—中国語との関連で—」② 11. 論文(総論)中川正之「類型論から見た中国語と日本語と英語」① 12. 論文(総論)中川正之「類型論から見た中国語と日本語と英語」② 13. 誤用分析・発表① 14. 誤用分析・発表② 15. 誤用分析・発表③
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	講義
評価方法 Evaluation	授業参加度30% 発表30% レポート40%
履修上の注意 Requirements and policy	毎時間出席を確認します。 中国語学習経験を求めませんが、この授業をきっかけに中国語に関心を持ってください。
教科書 Textbook(s)	
参考書 Reference(s)	「はじめての人の中国語」中川正之(くろしお出版) 「日本語と中国語の対照研究論文集」大河内康憲(くろしお出版) このほか、中国国内発行の日本語教材・日本語学習者の作文など
備考 Remarks	

科目区分	国文学科専門教育科目						
科目名	日英対照言語学B						
担当教員	里井 真理子						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	月曜1	配当学年	2~4	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	この授業では、日本語と英語を言語的側面からだけでなく、文化的側面からも比較対照することによりさらに日本語や日本文化などについて深く学ぶことを目的とします。
授業計画 Syllabus	第1回 オリエンテーション 日本語と英語の違い 第2回 ことばの性差 女ことば・男ことば 第3回 敬語表現(1) 日本語の場合 第4回 敬語表現(2) 英語の場合 第5回 敬語表現(3) 演習 第6回 方言(1) 日本語の場合 第7回 方言(2) 英語の場合 第8回 ジェスチャー・仕草(1) ジェスチャー編 第9回 ジェスチャー・仕草(2) 手話編 第10回 英語の歴史 言語接触、外来語 第11回 生活様式とことば(1) 日本語編 第12回 生活様式とことば(2) 英語編 第13回 文化・芸能とことば(1) 日本語編 第14回 文化・芸能とことば(2) 英語編 第15回 まとめと試験
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	講義・演習
評価方法 Evaluation	平常点(出席、小テストを含む)50% 期末テスト 50% 尚、欠席した場合は平常点から減点とする。
履修上の注意 Requirements and policy	受講生には、積極的に授業への参加を望む。出席重視。復習をしっかりとしておくこと。 日頃から日本語と英語の違いなどについて意識すること。
教科書 Textbook(s)	プリント配布
参考書 Reference(s)	授業中に適宜指示
備考 Remarks	

科目区分	国文学科専門教育科目						
科目名	日本語教育演習B						
担当教員	池谷 知子						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	火曜3	配当学年	3~4	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	<p>この授業は、日本語を教えることを「実際に体験してみる」ことが目的です。そのためには、どのような文法項目がどのような順番で並び、また、それをどのように教えることができるのかを知らなければなりません。このクラスではまず、日本語のテキストを分析し、実際に何を教えるのかという「文法項目」を勉強します。そしてそれを生かして、「教案」の書き方を学び、最後に、実際に「模擬授業」を行ってもらいます。模擬授業の様子はビデオ取りし、その後フィードバックを行います。7月には学内で留学生のクラスに参加し、模擬授業だけでは経験できない体験をします。授業外では希望者はアジアの大学からの短期日本語研修生の日本語パートナーとして登録し、日本語指導だけではなく、異文化間コミュニケーションも体験することができます。</p> <p>授業の一環としての学外活動として、海外技術者研修センター(AOTS)でクラス授業に参加して、多様な日本語教育に触れることができます。このような性格の授業ため、授業を休まず、積極的に授業に参加することを希望します。</p> <p>シラバスは参加者の人数や受け入れ先の都合により、変更される可能性があります。</p>
授業計画 Syllabus	<p>第1回～第10回 模擬授業 第11回～第13回 非母語話者参加による教壇実習 第14回 日本語教育実習 まとめと振り返り 第15回 海外技術者研修協会関西研修センター（学外研修）</p>
参照URL Referance URL(s)	
授業方法 Class type	講義形式+実習（模擬授業）
評価方法 Evaluation	授業点（出席・宿題・準備・積極性など）75%+模擬授業（教案・実習・報告）25%
履修上の注意 Requirements and policy	出席を重視します
教科書 Textbook(s)	みんなの日本語 初級I本冊（スリーエーネットワーク）2,500円 ISDN4-88319-102-8
参考書 Reference(s)	
備考 Remarks	

科目区分	国文学科専門教育科目						
科目名	日本語教育研究B						
担当教員	山極 美奈子						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	火曜1	配当学年	2~4	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	「日本語教育研究A」参照
授業計画 Syllabus	<p>第1回：後期オリエンテーション 第2回：「言語と教育 授業の計画と実施」① 第3回：「言語と教育 授業の計画と実施」② 第4回：「言語と教育 授業の計画と実施」③ 第5回：教材分析（分析とミニ発表）① 第6回：教材分析② 第7回：教材分析③ 第8回：評価法（誤用分析・作文添削）① 第9回：評価法② 第10回：評価法③ 第11回：日本語教育におけるコミュニケーション教育① 第12回：日本語教育におけるコミュニケーション教育② 第13回：後期のまとめ 第14回：後期試験 第15回：後期試験の解答・解説</p> <p>* 学外研修または合同授業等で変更の可能性あり</p>
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	「日本語教育研究A」参照
評価方法 Evaluation	「日本語教育研究A」参照
履修上の注意 Requirements and policy	「日本語教育研究A」参照
教科書 Textbook(s)	「日本語教育研究A」参照
参考書 Reference(s)	
備考 Remarks	

科目区分	国文学科専門教育科目						
科目名	日本語教育研究D						
担当教員	池谷 知子						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	月曜2	配当学年	3~4	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	<ul style="list-style-type: none"> 日本語の文法の仕組みを客観的に考える。 外国人に日本語を教える時のポイントやコツを学ぶ。 日本語を教えることはどういうことを学ぶ。 <p>英語など他の言語を学ぶとき、私達は「文法」ということを強く意識します。しかし、私達の母語である日本語の文法について深く考えることはあまりありません。そのため、日本学習者から「眼鏡をかけた人」と「眼鏡をかけている人」は何が違いますかと尋ねられても、すぐに答えることができません。</p> <p>この授業では、普段何気なく使っている私達の母語である「日本語」の文法にどのような規則があり、どのような言語かということについて、客観的に考えます。それとともに日本語を教える時のテクニックについて勉強します。このことが、外国人とコミュニケーションする時のコミュニケーションに役立つだけでなく、自分自身の日本語能力について再発見したり、見直す機会になることを期待します。また、講義形式の授業だけでなく、グループワークも行います。みんなで意見出し合いながら、文法について考えてみましょう。</p>
授業計画 Syllabus	<p><後期></p> <p>第1回 はじめに・モダリティ</p> <p>第2回 終助詞</p> <p>第3回 副詞</p> <p>第4回 接続詞</p> <p>第5回 待遇表現</p> <p>第6回 敬語</p> <p>第7回 授受表現</p> <p>第8回 あいづち</p> <p>第9回 許可・義務・勧告</p> <p>第10回 命令・依頼・誘い</p> <p>第11回 忠告・感謝</p> <p>第12回 原因・理由・断り・謝罪</p> <p>第13回 意見・ほめ</p> <p>第14回 中級の指導・復習テスト</p> <p>第15回 まとめ・復習テスト講評</p>
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	講義形式 (グループワークでの作業もあります)
評価方法 Evaluation	<p><評価方法></p> <p>出席+授業態度+授業内提出物60%</p> <p>復習テスト40%</p>
履修上の注意 Requirements and policy	出席するだけでなく、授業中の活動、積極性も評価の対象とします。
教科書 Textbook(s)	『書き込み式でよくわかる 日本語教育文法講義ノート』 山下暁美・沢野美由紀 (2008) アルク ISBN978-4-7574-1399-3 C0081 定価1800円
参考書 Reference(s)	

備考 Remarks	
---------------	--

科目区分	国文学科専門教育科目						
科目名	日本語教育入門						
担当教員	村上 敬一						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	水曜2	配当学年	1~4	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	<p>【授業の目的】 外国語としての日本語教育と異文化間コミュニケーション、多文化共生についての理解を深める</p> <p>【概要】 外国語としての日本語教育を実践的に学び、日本語を外国語として学ぶ人々への理解を深めるなかで、日本語教育の基礎的な知識を学ぶ。日本語教育を通じて、自身の身近な問題から、グローバル化した社会問題まで、多角的な視野と思考力を身に付けるためのトレーニングを行なう。講義だけでなく、異文化間コミュニケーション、多文化共生の実践として、留学生との合同授業を行なうなど、実体験を通じた学習形態も取り入れる。</p>
授業計画 Syllabus	<p>第1回 イン트로ダクション 第2回 日本語を学ぶ人 第3回 日本語を教える人 第4回 日本語教育における異文化コミュニケーション（1） 第5回 神戸大留学生との合同授業 第6回 日本語教育における異文化コミュニケーション（2） 第7回 日本語教育における異文化コミュニケーション（3） 第8回 日本語教育のコースデザイン 第9回 日本語教育教授法（1） 第10回 日本語教育教授法（2） 第11回 第二言語習得と日本語教育（1） 第12回 第二言語習得と日本語教育（2） 第13回 日本語教育の歴史（1） 第14回 日本語教育の歴史（2） 第15回 期末テストと解説</p> <p>※ アジアプログラム留学生との合同授業に振り替える場合がある。 そのときは、改訂したものを通知する。</p>
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	講義、留学生との体験的合合同授業
評価方法 Evaluation	出席（30%）、授業中に課すレポート類（35%）、期末テスト（35%）
履修上の注意 Requirements and policy	出席することはもちろん、授業中の諸活動に進んで参加すること。
教科書 Textbook(s)	遠藤織枝（編）『日本語教育を学ぶ』 三修社 ISBN：978-4-384-04078-4
参考書 Reference(s)	山下暁美（編著）『日本語教育文法講義ノート』 アルク 庵功雄ほか『やさしい日本語のしくみ』 くろしお出版 堀井恵子『日本語教育への扉』 凡人社
備考 Remarks	

科目区分	国文学科専門教育科目						
科目名	日本文化を学ぶD／日本文化特殊講義D						
担当教員	青木 千代子						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	月曜2	配当学年	2～4	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	御伽草子は、主として室町時代から江戸初期に広く楽しまれた物語類をいう。今回はそれらの内から、『鉢かづき』を読む。この話は、継子いじめや貴種流離譚(きしゅりゅうりたん、高貴な人がつらい境遇になりさすらうこと)などかつての人々が好んだモチーフで成り立っている。それらを読んで日本の文化史の一端に触れる。
授業計画 Syllabus	第1回:教科書の説明、時代区分、ジャンルなど 第2回:御伽草子について 第3回:『鉢かづき』の本文 第4回:『鉢かづき』の本文 第5回:『鉢かづき』の本文 第6回:日本の婚姻史 第7回:話型いろいろ 継子いじめ 第8回:継子いじめ 第9回:貴種流離譚 第10回:貴種流離譚 第11回:玉の輿に乗る話 第12回:異形(いぎょう)と差別 第13回:山蔭中納言という人 第14回:長谷寺観音の靈驗譚 第15回:まとめ、補遺など
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	講義形式
評価方法 Evaluation	日常的な授業に対する取組状況等の評価 2割 途中の小レポート 3割 期末レポート 5割
履修上の注意 Requirements and policy	講義形式の授業になります。参考資料のプリントを配布しますので、毎回持参するためのバインダーなどを用意すること。
教科書 Textbook(s)	桑原博史『おとぎ草子』講談社学術文庫 ISBN4-06-158576-2 C0193
参考書 Reference(s)	
備考 Remarks	

科目区分	国文学科専門教育科目						
科目名	比較文化論B						
担当教員	辻野 理花						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	火曜3	配当学年	2~4	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	ジェンダーの比較文化論 本講義では、比較の視点で複数の社会の文化をジェンダーをキーワードに考察していく。映像資料も活用しながら、他者の目でとらえた文化、創りだされるイメージやそれがもたらす影響などについても上記のキーワードを中心にみていく予定である。
授業計画 Syllabus	第1回イントロダクション 第2回ジェンダーについて① 第3回ジェンダーについて② 第4回ジェンダーについて③ 第5回創られるジェンダーのイメージ① 第6回創られるジェンダーのイメージ② 第7回ジェンダーと性別役割分業① 第8回ジェンダーと性別役割分業② 第9回ジェンダーと性別役割分業③ 第10回女性と通過儀礼① 第11回女性と通過儀礼② 第12回通過儀礼の多様性 第13回女性と労働① 第14回女性と労働② 第15回まとめ
参照URL Referance URL (s)	
授業方法 Class type	講義形式
評価方法 Evaluation	授業中にかいてもらう簡単なレポート、学期末レポート、出席で評価する
履修上の注意 Requirements and policy	必要に応じて随時資料を配布する
教科書 Textbook (s)	プリントを配布します。
参考書 Reference (s)	授業中に紹介します。
備考 Remarks	

科目区分	国文学科専門教育科目						
科目名	文章表現法B／池谷 知子						
担当教員	池谷 知子						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	木曜2	配当学年	2～4	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	<p>日本語の文章表現（表記・書きことば）についての知識を高めるとともに、その運用能力向上を目的とする。具体的には以下に示すとおりである。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 論理的で明確な正しい文章表現力を養う。 2. 現実に目的を持った文章の内容を、確実に読み取る力を養う。 3. 事実を客観的に把握し表現する。 4. 文章を構成する文や段落の、文章内部での役割を確実に把握する力を養う。 5. 自分の知識や経験を生かして思考する力を養う。 6. 自分の意見を効果的に記述する能力を養う。 7. 手紙やビジネス文書などを、その目的に応じて的確に記述する力を養う。
授業計画 Syllabus	<p>第1回 報告書・レポートの作成① 第2回 報告書・レポートの作成② 演習問題 第3回 段落の役割① 第4回 段落の役割② 演習問題 第5回 適切な語句を選んで使う① 演習問題 第6回 悪文を正す① 第7回 悪文を正す② 演習問題 第8回 中間試験とその解説 第9回 論説文・小論文を書く① 第10回 論説文・小論文を書く② 演習問題 第11回 書簡文を書く① 第12回 書簡文を書く② 演習問題 第13回 実践練習① 第14回 実践練習② 第15回 期末試験とその解説</p>
参照URL Referance URL(s)	
授業方法 Class type	講義、及び実践形式
評価方法 Evaluation	出席状況とレポート（40%）、中間試験（30%）、期末試験（30%）
履修上の注意 Requirements and policy	単位認定には、全講義回数の4/5以上の出席が必要
教科書 Textbook(s)	日本語文章能力検定協会 『日本語文章能力検定準2級徹底解明』（オーク） 978-4-87116-054-4
参考書 Reference(s)	
備考 Remarks	

科目区分	国文学科専門教育科目						
科目名	文章表現法B／片岡 利博						
担当教員	片岡 利博						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	木曜2	配当学年	2～4	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	<p>日本語の文章表現（表記・書きことば）についての知識を高めるとともに、その運用能力向上を目的とする。具体的には以下に示すとおりである。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 論理的で明確な正しい文章表現力を養う。 2. 現実に目的を持った文章の内容を、確実に読み取る力を養う。 3. 事実を客観的に把握し表現する。 4. 文章を構成する文や段落の、文章内部での役割を確実に把握する力を養う。 5. 自分の知識や経験を生かして思考する力を養う。 6. 自分の意見を効果的に記述する能力を養う。 7. 手紙やビジネス文書などを、その目的に応じて的確に記述する力を養う。
授業計画 Syllabus	<p>第1回 報告書・レポートの作成① 第2回 報告書・レポートの作成② 演習問題 第3回 段落の役割① 第4回 段落の役割② 演習問題 第5回 適切な語句を選んで使う① 演習問題 第6回 悪文を正す① 第7回 悪文を正す② 演習問題 第8回 中間試験とその解説 第9回 論説文・小論文を書く① 第10回 論説文・小論文を書く② 演習問題 第11回 書簡文を書く① 第12回 書簡文を書く② 演習問題 第13回 実践練習① 第14回 実践練習② 第15回 期末試験とその解説</p>
参照URL Referance URL(s)	
授業方法 Class type	講義、及び実践形式
評価方法 Evaluation	出席状況とレポート（40%）、中間試験（30%）、期末試験（30%）
履修上の注意 Requirements and policy	単位認定には、全講義回数の4/5以上の出席が必要
教科書 Textbook(s)	日本語文章能力検定協会 『日本語文章能力検定準2級徹底解明』（オーク） 978-4-87116-054-4
参考書 Reference(s)	
備考 Remarks	

科目区分	国文学科専門教育科目						
科目名	文章表現法B／村上 敬一						
担当教員	村上 敬一						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	木曜2	配当学年	2～4	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	<p>日本語の文章表現（表記・書きことば）についての知識を高めるとともに、その運用能力向上を目的とする。具体的には以下に示すとおりである。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 論理的で明確な正しい文章表現力を養う。 2. 現実に目的を持った文章の内容を、確実に読み取る力を養う。 3. 事実を客観的に把握し表現する。 4. 文章を構成する文や段落の、文章内部での役割を確実に把握する力を養う。 5. 自分の知識や経験を生かして思考する力を養う。 6. 自分の意見を効果的に記述する能力を養う。 7. 手紙やビジネス文書などを、その目的に応じて的確に記述する力を養う。
授業計画 Syllabus	<p>第1回 報告書・レポートの作成① 第2回 報告書・レポートの作成② 演習問題 第3回 段落の役割① 第4回 段落の役割② 演習問題 第5回 適切な語句を選んで使う① 演習問題 第6回 悪文を正す① 第7回 悪文を正す② 演習問題 第8回 中間試験とその解説 第9回 論説文・小論文を書く① 第10回 論説文・小論文を書く② 演習問題 第11回 書簡文を書く① 第12回 書簡文を書く② 演習問題 第13回 実践練習① 第14回 実践練習② 第15回 期末試験とその解説</p>
参照URL Referance URL(s)	
授業方法 Class type	講義、及び実践形式
評価方法 Evaluation	出席状況とレポート（40%）、中間試験（30%）、期末試験（30%）
履修上の注意 Requirements and policy	単位認定には、全講義回数の4/5以上の出席が必要
教科書 Textbook(s)	日本語文章能力検定協会 『日本語文章能力検定準2級徹底解明』（オーク） 978-4-87116-054-4
参考書 Reference(s)	
備考 Remarks	

科目区分	国文学科専門教育科目						
科目名	文法・敬語の基礎知識／国語学講読D						
担当教員	池谷 知子						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	火曜4	配当学年	2～4	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	<p>【目的】日本語文法・敬語のしくみと運用について考える</p> <p>【概要】現代日本語の課題のひとつに、多言語・多文化共生社会の実現がある。同じ言語を使用する人々はもちろん、異言語・異文化の人々が相互に理解し、尊重し合って生きていくためには、ことばや文化、生活習慣や価値観の多様性を認め合うことが不可欠である。この講義では、日本語の文法、敬語のしくみとその効果的な運用について考えることで、気持ちや考えを伝え合うことばのはたらき、伝え合うことによって人間関係を築く話しことばのはたらきについても考えを深めていきたい。</p>
授業計画 Syllabus	<p>第1回 話しことばと敬語</p> <p>第2回 敬語と人間関係</p> <p>第3回 敬語の種類とはたらき①</p> <p>第4回 敬語の種類とはたらき②</p> <p>第5回 敬語の特別な形</p> <p>第6回 第三者に対する敬語</p> <p>第7回 間違いやすい敬語</p> <p>第8回 話しことばの実際</p> <p>第9回 日本語の語彙</p> <p>第10回 日本語の表現</p> <p>第11回 慣用句・ことわざ・四字熟語</p> <p>第12回 スピーチの準備</p> <p>第13回 スピーチの原稿</p> <p>第14回 スピーチの実践</p> <p>第15回 まとめ</p>
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	講義形式
評価方法 Evaluation	出席・受講態度（60％）レポート（40％）
履修上の注意 Requirements and policy	全講義回数の4/5以上の出席をもって、レポートの提出資格を有するものとする。
教科書 Textbook(s)	最初の講義の際指示する。プリントを適宜配布する。
参考書 Reference(s)	授業中に紹介する。
備考 Remarks	